

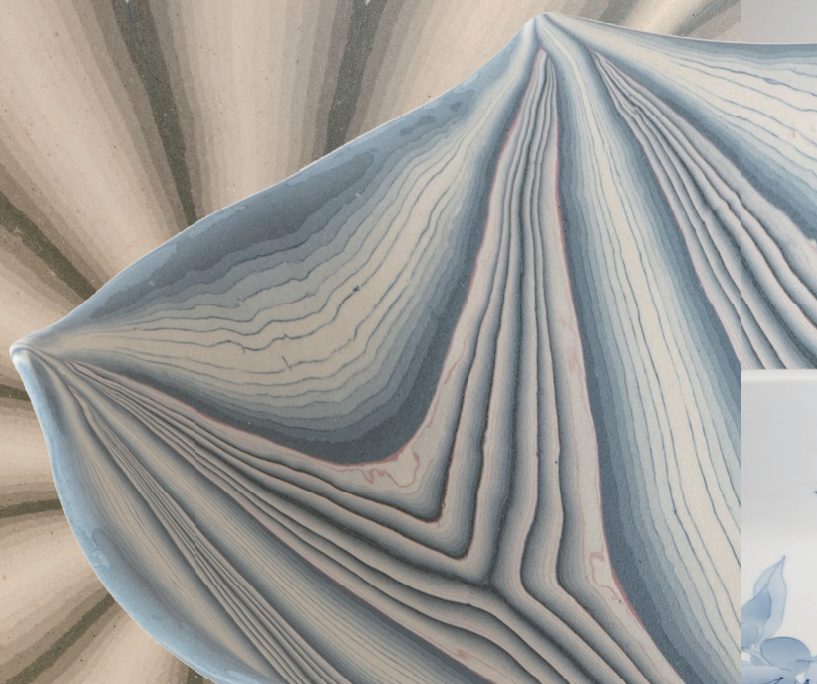
# MAHORROBA

2021 Ceramic Art Exhibition at Midorigaoka Art Museum in Nara, Japan

# TOH X4



MAM Collection



倭は国の真秀らば  
 疊なづく青垣山籠れる  
 倭し麗し

古事記 712年・倭建命

古くは古事記にも歌われる大和・奈良の故郷の素晴らしさ。「まほろば」は、もっとも良いところの意。この美しい大和の風景をこよなく愛し、その姿を土に焼き留めんとする作り人が居る。或る者は土を練り、或る者は土に描き、或る者は土を削り、或る者は土を撒く。浮かび上がる気配は静かなる清風の囁き。それぞれに時空を超えて魂が宿る。万葉の里で生まれた麗しの陶。奈良・生駒の緑ヶ丘美術館に与の人が集う。

◀「大和は国の中で一番良いところ。幾重にもかさなりあった青い垣根のような山々にかこまれた大和はほんとうに美しいところ」

まほろば陶  
 Produced by Midorigaoka Art Museum

荻野萬壽子  
 Ogino Masuko

山中辰次  
 Yamanaka Tatsuji

本多亜弥  
 Honda Aya

糸井康博  
 Itoi Yasuhiro

## 《万葉の里・麗しの陶》奈良・四人展

2021年9月26日(日)~12月26日(日)まで ●入場無料

[開館日] 水・木・土・日曜日 11:00~16:00 (入館は15:30まで) [休館日] 月・火・金曜日

[会場] 緑ヶ丘美術館・別館 → 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 1426-38

[URL] <http://mam-museum.com> (お問い合わせはFAXで: FAX.0743-85-7879)

# MAM-ANNEX

Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館・別館



# MAHOROBA

2021 Ceramic Art Exhibition at Midorigaoka Art Museum in Nara, Japan

# TOH



まほろば  
陶

Produced by Midorigaoka Art Museum

あをによし 寧楽の京師は咲く花の  
薫ふがごとく 今盛りなり

万葉集(巻三・三三八) 大宰少弐小野老朝臣

## 荻野萬壽子 [練上]

Ogino Masuko

●練上作陶家 / 日本工芸会正会員 (奈良・北葛城)  
練上技法に独自の技を編み出し、突如、工芸界に出現した陶芸家。幾重にも貼り重ねられた粘土が絶妙な色のグラデーションを放つ。作家秘伝の練上は、やがて“まほろば”の風景を映し出す。



〈練上大輪華〉

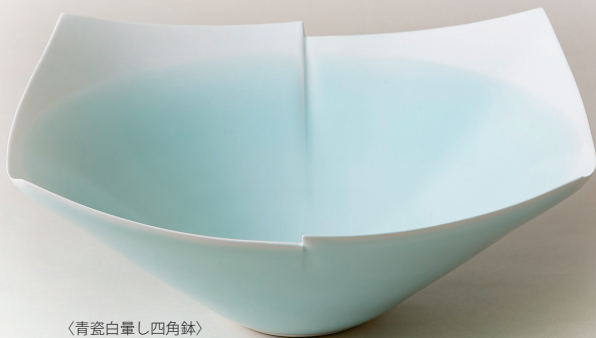


〈染付彫鉢 紫陽花〉

## 本多亜弥 [染付]

Honda Aya

●染付作家 / 日本工芸会正会員 (奈良・天理)  
呉須を含んだ太い筆から生まれる清楚な染付作品。様々な鉱物を調合しオリジナルな青色を作り出し、濃淡で立体感を出す。研究を重ねる染付彫を開発。心を澄みわたらせる伝統の色が顔を出す。



〈青瓷白暈し四角鉢〉

## 山中辰次 [青瓷]

Yamanaka Tatsuji

●青瓷作家 / 日本工芸会正会員 (奈良・天理)  
回転体のろくろ成形から生まれる四角や花弁形。磁土は、精巧な技によって薄く削り込まれ、繊細な青瓷の肌を纏う。おびたしい回数に施釉と磨き。青白瓷に透明感のある景色が浮かび上がる。

## 糸井康博 [灰釉]

Itoi Yasuhiro

●陶芸家 / 日本工芸会正会員 (奈良・王寺)  
松、樅、杉、葡萄など、独自の植物灰の釉薬を研究。自然の灰から生まれる柔らかな表情の焼き色を生み出した。施釉の植物灰は高温でガラス質に変異する。陶土に馴染む灰釉の進化はこれからも続いていく。



〈灰釉鉢 眺〉



Midorigaoka Art Museum

緑ヶ丘美術館・別館

〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘 1426-38  
FAX.0743-85-7879 [URL] <http://mam-museum.com>

### 交通アクセス

●公共交通機関：(地下鉄中央線・近鉄けいはんな線)または(近鉄生駒線)(近鉄奈良線)で「生駒駅」下車。生駒駅「南口1番のりば」より奈良交通バス「中葉畑二丁目行き」バス乗車→「新旭ヶ丘バス停」下車、徒歩すぐ。  
※当美術館には駐車場はございません。



710年に日本の本格的な首都・平城京が誕生してから1300年。その昔、大陸からは仏教とともに文化、技術が伝来、遣隋使、遣唐使を経て、古都奈良の歴史は日本の風土風習を形作り、その文化は今も連綿と続いている。

万葉の時代、大和まほろばの国は異文化を吸収し、目を見張る輝きを見せたのであろう。渡来した民の残した功績は今も受け継がれ、時代とともに姿を変化させくまほろば陶>として奈良に息づく。《万葉の里・麗しの陶》奈良・四人展は、奈良在住の陶芸作家の共演です。それぞれに異なる技法、感性で表現された陶の景色をお楽しみください。緑ヶ丘美術館・別館、秋の展覧会です。